

公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10
 TEL<058>244-0150 FAX 244-0151
 ホームページ <http://www.ktroad.ne.jp/~gikyoo/>

「変わらず
 大切にしたいもの」

公益社団法人岐阜県交響楽団
 理事 山口 貴生



私が公益社団法人岐阜県交響楽団（岐響）の理事に就任させていただいたのは、今から二年前、平成二十九年六月のことでした。それまでも岐響の演奏を聴く機会は何度かありましたが、楽団の理事として関わることになるのは想定しておらず、身の引き締まる思いがしたことを覚えていません。

昨年十二月、岐響は愛知県芸術劇場コンサートホールでの六十五周年記念公演、また不二羽鳥文化センターでの岐阜公演を開催しました。練習の成果を存分に発揮され、訪

れたお客さま方に素晴らしい演奏と大きな感動を提供されたことは、理事の一人として、また一岐阜県民として、心より嬉しく、誇りに思います。

私とクラシック音楽との関わりは、私の勤務する岐阜信用金庫にて、平成五年に「スベシャルコンサート」と題したコンサートを開催したことに始まり、当時私は地域貢献活動の担当責任者でした。折しも世の中はバブル絶頂期にあり、企業が芸術・文化活動を支援する「メセナ」が認知されつつある状況でした。そのような中、地域金融機関として、地元の方々にクラシック音楽をお届けする活動を始めたのです。

この活動は、その後も「ぎふしんふれあいコンサート」と名前を変え、地域のお客さまに本格的なクラシック音楽をお届けする場として、経済

等世の中の状況が変わっても途絶えることなく、毎年開催しております。二十六年目を迎えた昨年は本家「ストラディバリウス」の音色を楽しんでいただくことができました。

この「ぎふしんふれあいコンサート」ですが、最近では地元の音楽家の方に出演していただく機会もありました。出演後、世界で活躍されることとなつた方もあり、主催者として非常に喜ばしいことと存じます。

一方で、私と岐響とのご縁も当金庫のコンサートに始まります。平成六年、岐阜信用金庫創立七十周年記念コンサートとして岐響をお招きし、「交響曲岐阜」等を演奏していただきました。アマチュアであり、他に仕事を持ちながらも、いい音楽をつくろうと努力されている楽団員の皆様の姿に胸を打たれました。お客さまからも大好評で、地元岐阜に、このようなアマチュアのオーケストラがあることは大変すばらしいことだと感じました。

さて、昨今においては、技術革新のスピードが速く、変化の激しい時代となっております。私ども金融業界における環境

も「デジタル金融」や「キャッシュレス決済」の進展をはじめとした金融サービスが日々刻々と変化しています。変化に対応し、お客さまの要望にお応えしていくことが求められていると強く感じます。

しかしながら、どれだけ時代が変化しても、変わらずに大切にしたいものもあります。クラシック音楽はその代表的な一つです。地域の皆さまに、本物のクラシックをお届けする、その点において、当金庫の取組みは、岐響の活動と相通ずるものがあります。岐響はその六十五年の歴史の中で、地域のオーケストラとして大きな役割を果たしてこられました。この活動を、これからも変わらず大切にしていきたいと考え、微力ではございますが皆様の活動に少しでも一緒にさせていただきたいと考えております。

最後になりましたが、楽団員の皆様、二〇二三年五月四日に開催される「創立七十周年記念カーネギーホール公演」に向け、ますますご活躍されることをお祈り申し上げます。
 （岐阜信用金庫専務理事）

新田ユリ先生 インタビュー

シベリウスなどの北欧音楽に造詣が深い新田先生ですが、この北欧音楽との出会いはどのようなことがきっかけでしたか？

もともと子供の頃は札幌で育ちました。そこで父がロシア語の先生だったこともあり、うちにはロシア人の方もいらっしやったりしていて、よくお土産でレコードを買ったりしたこと、子供のころはロシアの音楽に傾倒していました。

音大を卒業していろいろな仕事をする中で、北欧の弦楽オーケストラの曲に先ず出会い、その後シベリウスの1番のシンフォニーに出会いました。そこで感じたのが、子供のころに感じた北国の空気というか、北国の気質みたいなものがあるんだというところで、そこにまず感激したんです。

それと、シベリウスって20世紀も半分くらい生きてるので、新しい作曲家でもあるんですね。それなのにこんなにも解りやすいメロディーだとかを書いてる。もちろんモダンな書き方も色々してるんですけど、でも無調にならないで、いろいろな新しい手法で、また新しい響きを見つけている、そういうことに非常に驚き、惹かれたというか。それでシベリウスはもちろん、北欧の作曲家、フィンランドの作曲家っていうのは何故そういうのが書けるんだろうというのが不思議に思うところがあり、それで勉強というかりサーチを初めたんですね。

ではそんな北欧音楽、シベリウスの音楽の魅力を、もう少しお聞かせ下さい。

演奏されてもわかると思うんですが、音符の数って決して多くないんですよ。伸ばす音も多いし、また休符も多いです。少ない音符で、ごく広い世界というか、大きな世界を描く作品が多い、それがやっぱりすごいなと思います。同時代のR. シュトラウスやマーラーだとスコアが音符でもうまっ黒じゃないですか(笑)。勿論それはその魅力があるわけですけど、それとは違う方法で大きな広い世界を描ける、というところがあります。

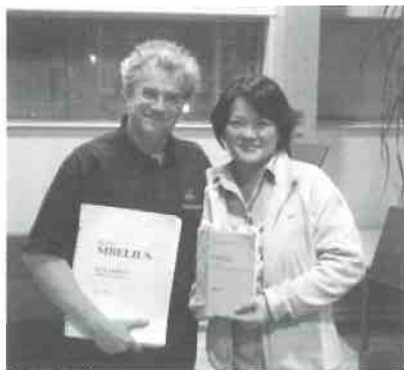
実際のフィンランドに通うようになって20年くらいになりますけど、人と自然環境との距離感というのがすごく良いバランスなんですよね。そんな哲学が、作品の中にも聞かえてくるなっていうのを思っています。もう少し大きな言い方をすると、人がこうありたい、とか、人はこうあらねばならない、とか、それが自然界のものを超えてしまうと、自然からのしっぺ返しがある、そんな教えが聞こえてくるような作品がすごく多いんです。それはフィンランドの人だとカレワラ神話とあって、日本という日本神話に出てくる天照大神のお話のような、八百万の神々というものを描いた作品です。

やはりこう、音、響き、音楽というものが人間だけのものではなく、地球、宇宙、全てにあるもの、それを人も聴いているということ。作曲家はそこから得たものを再構成して曲にしてるんだと、そういう哲学が凄く北欧の人達からは聞こえてくるんです。それは演奏していても自分にとってはナチュラルなことだし、聴いていても凄くスツと腑に落ちるものが多いです。

北欧への留学もされています新田先生ですが、現代のシベリウスの第

一人者ヴァンスカさんにも師事されていらっしやいますね。

ヴァンスカ先生と出会ったことは何よりも大きなことでした。1999年、タイミングよくヴァンスカ先生とラハティ交響楽団が初来日公演をする時でした。前もって人を介して先生には手紙は書いてあったのですが、じゃあ日本に行くから会いましょうということでお話をいただきました。すみだトリフォニーホールでの初日のリハーサル後に、一時間くらいずっとお話を聞いていただきました。その結果、受け入れます、と言ってくださったので、2000年の10月から1年間、ラハティのオーケストラで研修することになりました。それが全ての始まりなんです。



▲ヴァンスカ先生と共に

その頃は、BISレーベルでシベリウス交響曲全集を録音している途中で、レコーディングも全て立ち会わせていただきました。ヴァンスカ先生の姿勢というのは、とにかく楽譜をもう一回全て読み直そう、というところ。今まで演奏されてきたことを全て一旦削ぎ落として、何をシベリウスが書いたか、をもう一度全部やるとうと。

ちょうどラハティ交響楽団が新しいホールを建てて、新しいホールの中で新しい響きを作っていたところでしたが、ホールに針一本落ちてもちゃんと客席に聞こえるようなホールで（笑）。ほんとに弦がピアノ3つの箇所を演奏していると、もう弓の毛何本使ってるんですか、っていうくらいちっちゃい音なんです。でもちゃんと聞こえるんですよ。その中で演奏する新たなバランス、楽譜通りのバランスって、本当はこういう風になってるんだということが凄くそれで解って、非常に衝撃でした。そこから私自身も譜面の読み方っていうのは改めなくてははいけないと思うようになりました。ヴァンスカ先生は2008年でラハティを離れたのですが、今でもシベリウス音楽祭やその他の演奏会には、毎年訪れて観ています。

今回のプログラムでは、シベリウスの曲の間に伊福部さんの曲が入っていますね。

ちょうど100年前の昨日（5月24日）が日本とフィンランドの国交が樹立した日なので、今回、日本とフィンランドの曲を入れたのはそれが理由でもあります。

伊福部さんの曲は、やはり北海道の人であるということ、オーケストラレーションであるとか、何よりその節回しであるとか、北欧の作品に通じるものがあります。フィンランドに昔からある、民謡などが、日本の唱歌だったり、古くから伝わる歌とかと、すごく近いものがあるんです。伊福部さんの作品のああった歌も、フィンランドの人はすぐ解って下さるんですよ。フィンランドのオーケストラに日本の曲を持って行ったことが何回かあるんですけど、ほんとにフィンランドの人たちって説明しなくても解ってしまうんですよ、日本の曲を。ああ、やっぱり何か通じるものがあるんだなあと思つて。だからそういう意味もあつて今回、伊福部さんの曲だったらシベリウスの間に入つても全然違和感ないだろうし、ああいう原始的なプリミティブなものっていうのはシベリウスの初期の作品にも結構出

てくるので、それとも近いということもあります。



各曲につきまして、お話を伺いたいです。

「春の歌」は今回、2つある版のうちの後の方の版です。北国の春って、あつという間に出て、すぐに夏になる、みたいな短い春ですけど、そんな短い北欧の春というのが、凄くよく解る曲です。メロディーもすぐに覚えていただけそう、こんなに親しみやすい曲なので、御紹介したいなつてこともあり選んでいます。伊福部さんは先程も言いました通

り、自分が札幌育ち、ということが音楽活動のどこかの根っこにあるんですよ。北海道の音、北海道の歌、というのは自分にとってすごく近く感じる、その意味でも選んでいます。

交響曲第一番は、自分がシベリウスに入る一番のきっかけになった作品でもあつて、ほんとにこれまで何回やったか分からないくらい（笑）シベリウスの最初のシンフォニーで（それ以前のケレルヴォ等もありますが）、バリ万博に間に合わせるために作り直した、というように、シベリウスが世の中に出て有名になるきっかけになった曲です。珍しく彼の野心が出ている曲だと思つて、この野心が聴いていただきたい。フィンランドディアと同じくらいの時期に作ったシンフォニーであるということでも是非紹介したいなと思つています。

先生は音楽をなさる時、どのような事を最も大切になさつていますか？

まず作曲者が何を考えていたか、ということから離れない、それをまず第一に考えたいと思つています。

音を並べるといふ意味では、作品ごとのカラーとか、それをちゃんと出す、という事はどんな曲であつても難しいことであつて、こちら側が凄く引き出しを沢山持つていないと、出来ないことだと思ひます。同じ音の形でも作曲者によつて違ふ、それをいつでも出せるようにしていきたいなつていふのは一番思つていますね。

岐阜県交響楽団を練習していただきまして、いかがでしたか？

オーケストラとしての形というのは一つ出来ているな、つていふのは凄く思ふんですね。そういう意味で、あ、巧いなつて思ふ瞬間もたくさんありました。ただ、本当の意味で、周りを聴いていないかな、つて思ふところはちよつとあつて(笑)、それが出来るのもつと凄くことも出来るようになります。音の長さなど、自分の音符をきつちりと音にする等のこと、もつと充実した大人のオケの音が出そうな気がしています。ほんのちよつとの差だと思ふんですよ、そこは。曲の中で、こういう風に流れてきたらこうするんだとか、こういうパターンはこういう風に音を集めるとか、ほんとに皆さんパツと出来ていらつしやる。それに

加えて、もう少し深く他の音を聞いてみたりするといいな、と思つてはありましたね。

今後の先生のご活動のご予定はいかがですか？

まずは皆さんの演奏会がありますが、7月には、自分が常任指揮者をしていふ愛知室内オーケストラがフィンランドに行くので、その公演の準備があります。愛知室内オーケストラは今初めてシベリウスに取り組みます。

また、「ポホヨラ調べ」(五月書房)が、もう少しで再販になるのですが、今回中身を増やしての増版になるので、その執筆もしています。それが今ちよつと大変なのですが(笑)それも一つの大切な役割だと思つていきます。

本日は練習後のお疲れのところ、ありがとうございます。

インタビュー Hr 畑 匡人



第90回定期演奏会／'19ファミリーコンサート アンケートより

今回も沢山のお客様にご来場いただき、また沢山のご感想をいただきました。
その中から僅かではございますが、ここにご紹介させていただきます。

～ 第90回定期演奏会アンケートより ～

- 聴けて良かった、本当に良かった。65周年の記念すべき演奏会、おめでとうございます。岐響の響きとピアノの響き、やりとりの響きはとても心地よかったです(息ピッタリですね)ピアノの中に(一緒に)、そしてオーケストラの中に(一緒に)私の心も弾んでいました。繊細の中にも重厚な響きは今の私の気持ちを平和にしてくれました。(60才代、女性、県内)
- 紹介してくださりありがとうございました。おかげさまで楽しい、素晴らしいひとときが過ごせました。本当にありがとうございました。人生も今の葉子さん(指揮者)のように操れたらいいです。(60才代、男性、羽島市)
- 私も楽器演奏しようとしていて、ステージで演奏することの楽しさを思い出しながら聴かせていただきました。また練習しなくては…と感じました。(20才代、女性、岐阜市内)



～ '19ファミリーコンサートアンケートより ～

- ファッションショーがまさか見れるとは、感激！！でした。美しいモデルさんを見て、それに合わせた素敵な曲を聞いて、こんなに幸せなコンサートは生まれて初めてでした。ありがとうございました。(岐阜市内、50才代、女性)
- お茶の間のテレビにも、この主題歌を大勢の方々が演奏なさってみえることを知り、これからもこの感動を思い出してみる。一人一人の演奏家の方々に感謝の思いいっぱいです。本当にありがとうございました。(岐阜市内、81才代、女性)
- 岐阜で世界のファッションショー作品が観れて感動しました。岐阜市民にも本物を見る機会をふやしてほしい。(岐阜市内、70才代、女性)
- コンサート、とても楽しみました。ありがとうございました。岐阜嬢というテーマで、岐阜でご活躍されている女性の方々を知れて、とても嬉しく誇りに思いました。ピアノ協奏曲、素晴らしかったです！オートクチュールのファッションショーは予想外のコラボでしたが、デザインが面白くて刺激になりました。楽しかったです。ファッションショー好きでした。来れて良かったです。(多治見市、20才代、女性)



岐響団員が語る！

楽器の魅力・楽器との出会い
楽器への思い フルート編

フルートのひみつ 坂 淳子

フルートと言われてイメージするの
はピカピカ光る美しい横笛、といった
ところでしょうか。比較的楽器の中で
はメジャーな楽器ではありますが、実
はあまり知られることのない秘密がた
くさんあります。本日は中でも選りす
ぐりの秘密を3つ。

〈その1〉

実は：管楽器の中で一番歴史が古い
んです！
遡ること4万年、鳥の骨やマンモス
の牙に穴を2〜3個をあけた横笛。そ
れがフルートの祖先と言われています。
〈その2〉

実は：こう見えて木管楽器の仲間で
す！

岐響メンバーが吹いているピカピカ
光るフルートはどう見ても木じゃない
じゃないか！と思われても仕方あり
ません。でも、昔のフルートは木に穴
が開けてあるだけの楽器でした。（フ
ルートの仲間、リコーダーは今でもそ
うですね） だから木管楽器の仲間で
す。その後、今のフルートの形となっ
たのは約170年前のパリ万博で発表

された金属製のフルートです。現代で
は金や銀、洋銀、プラチナ製のフルー
トも！（吹けなくなったら輪切りにし
て指輪に：などと考えませんか？）も
ちろん今でも木製のフルートもありま
す。どの材質を選ぶのかは吹く人の音
色の好みです。

〈その3〉

実は：オーケストラの中で唯一の音
の出る仕組み！

他の木管楽器でいうリード、金管楽
器のマウスピース、弦楽器の弓、打楽
器のバチ：皆それぞれの音を出すため
の道具を持っています。しかし！フ
ルートにあるのはただの穴！そうで
す、フルートは自分自身が音を出す「仕
組み」となって何の変哲もないその穴
に上手く息を吹きかけることによつて
音を出しています。それだけに吹く人
によつて音色に個性が出やすいのが特
徴です。そして、自由度が高い音の出
し方ゆえ神秘的で甘い音から針のよう
に鋭い音まで様々な音色を生みだせる
フルート。

秘密を知れば知るほど、フルートつ
てとっても素敵な楽器です！

両親に感謝

伊藤陽子

出会いは中学一年生の春。

友達は吹奏楽部に入部すると決めて
いたようだ。私はテニス部に入ると決
めていたが友達に付き合つて吹奏楽部
の見学に行つてみた。初めて目の前で
見る楽器たち。知っている楽器や見た
ことのない楽器を上級生が放課後の音
楽室で吹いていた。いろんな音色が響
いている。

「吹いてみる？」

差し出されたのはクラリネット。友
達が希望している楽器だ。私もついで
に吹いてみる。

リードに口を当てて：あれっ音が出
ない…もつと息をいれて…「ぶおっ
〜ん」
鳴ったーやったーうれしー！

この時、私の中に衝撃が走った。体
に電撃が通り抜けたような感覚。この
出来事がきっかけで、即 吹奏楽部入
部！テニスの事はどこへやら。

晴れて吹奏楽部員となったのだが、
新入部員は何の楽器を担当するか決め
なくてはならない。自分が希望する楽
器を吹けるとは限らない。各楽器に割
り振らなければならぬからだ。人気
のある楽器には定員以上の希望者が集
まる。体験ではクラリネットに感動し
たが、見た目の美しさからフルートを
希望した。どうせやるならフルートを

吹きたかったが、予想通り希望者が多
かった。じゃんけん大会となったが運
よく勝ち抜け、大喜びしたことを覚え
ている。

：私の記憶はここまでなのだが、の
ちに両親から聞いたすつかり忘れてし
まっていた続きの話があった。

じゃんけん大会で見事勝ち抜け、大
喜びで帰宅した娘（私）。部活でフルー
トを吹くことになったと報告する娘の
はしゃぐ姿に両親はほほえましく思っ
ていたことでしょうか（多分）。

その夜、突然の来客が…。

ピンポン「〇〇楽器です。」そう、
楽器屋さんを訪ねてきたのだ。私の中
学校では当時、フルートだけは個人所
有だった。だから、楽器屋さんがフルー
トを売りにやってきたのだ。結局、そ
の場で十数万円のフルートを買っても
らった。このことをすっかり忘れてい
たとは両親に対して大変申し訳ないの
だが、改めて考えてみると自分が両親
の立場だったら、即決はできず、家族
会議を開くような状況だと想像する。

私は後に、岐阜県交響楽団に入団し、
社会人となって自分で楽器を新調。気
づけば四半世紀以上所属している。こ
んなに長く続けてこられたのは両親が
あの時即決してくれたお陰だと感謝し
ている。だからこの場を借りて言いた
い。親愛なる両親へ、人生に潤いを与え
てくださつて、ありがとうございます！

音楽っていいな

金指まゆみ

私は音楽が大好きです。いつも私の生活の中に音楽があります。私がフルートを始めたのは、東京に住んでいた10才の頃、ピアノを習っていました。とある演奏会で聴いたフルートの音色にすっかり魅せられて、自分でフルート教室を探して、親に「フルートをやりたい」と伝え、習い始めたのがきっかけです。それ以来何十年と続いています。

ピアノとフルートを習いながら、中学は水泳部、高校は硬式テニス部に入り頑張っていました。体育会系の生活が続くかと思いきや、大学は念願の管弦楽部に入部することができました。そこで、若かりし頃の小松先生と出会いました。小松先生は大学の名誉指揮者として学生を指導して下さり、ムソルグスキーの「はげ山の一夜」のソロの部分を何度も吹かされたことを、よく覚えています。学生に対しても、とても厳しく情熱の溢れる指導でした。

大学を卒業し、岐阜県交響楽団に入り小松先生とまた出会えたことに驚き、小松先生の指揮・指導のもとで東京公演で「交響曲 岐阜」をサントリールホールで演奏した時のことは今でも忘れられません。一生の思い出です。先生、ありがとうございます。

音楽を通して、指揮者の先生やオー

ケストラのたくさん仲間と一緒に音楽ができる、そのことがとても幸せです。だからこそ、もっともっと練習して、上手に演奏できるようになりたいと思っています。

先日、私の勤めている特別支援学校の音楽の授業で、「アルルの女」をフルートで演奏しました。中学部の生徒の中には、大きな音が苦手で、いつもは耳をふさいでしまったり、なかなか集中できなかったり、落ち着かない子もいるのですが、その時はほとんどの生徒がじっと私の方を見て、一言も声を出さないうで最後まで一生懸命聴いてくれていました。身体を揺らしながら、ここにこしながら一人一人の受け止め方で、音楽を感じていてくれたことがとても嬉しかったです。感想を聞いてみると「きれいだっただ」「素敵だった」「言葉にならない。」の声。演奏をした私の方が感動をもらいました。その後はみんな一緒に「世界で一つだけの花」をフルートとピアノで合唱しました。「音楽はやっぱりいいな」としみじみと感じた幸せなひと時でした。これからも音楽を通じて、たくさんの人と心を通わすことが出来るといいなと思います。

フルートと私

山北聖子

私は、高校の部活である吹奏楽部でフルートを始めました。中学の時は、吹奏楽部でホルンを吹いていたのですが、フルートで楽器に憧れてたんです。キラキラしてて、すぐ簡単に音が出せそうで、当時テレビで見たフルーティストの山形由美さんのようにキレイな感じになれるんじゃないかなって笑笑。

高校で憧れのフルートパートにて、美人な先輩、そして素敵な顧問の先生にご指導いただきながら、仲間と楽しく過ごしていました。マイ楽器が手元に届くまでの期間、かなりポロポロの学校の備品で頭部管を用いてプープーと音を出す練習をしていたのを今でも覚えています。

高校を卒業し、大学でもフルートを続けていけたらいいなと思っていたのですが、吹奏楽部がなく、管弦楽部しかありませんでした。フルートを続けていけるなら、と軽い考えで管弦楽部に所属しました。

管弦楽部では、吹奏楽とは違った音楽の新たな楽しみ方を学び、素敵な仲間や師匠に師事することで、よりフルートの奥深さや楽しさを学びました。社会人になってからも、フルートを続けていけたらいいなと、個人レッスンを受けながらオケ活をしていました。

フルートは大体的の方がご存知のポピュラーな楽器で、身近だけにフルートをなさる方の人数も多いんですが、オーケストラにおけるフルートは、なかなか募集がなく、空き待ちをすることがよくあります。私は運良く継続的に所属できていましたし、また、憧れの山形由美さんと演奏会で一緒にすることもできました。

音楽とそしてフルートを続けた縁で、色々な方と出会い、世界が広がり、また、主人とも出会うことができました。

岐響は、私がかつて所属していたオーケストラとは違い、恵まれた環境下で演奏活動ができています。専用練習場があり、演奏機会も多く恵まれていて、団員の皆さんがとても真面目で練習熱心なんです。このような素敵な仲間達と一緒に音楽演奏活動ができていくことに感謝しております。

これからもフルートを続けて、より良い演奏ができるよう、そしてご来場いただいたお客様に喜んでいただけるような演奏ができるよう精進して参ります。

今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

～団員、会員の募集について～

以下のように、一緒に演奏活動をしていただける団員、
および活動のご支援をいただける会員の募集を随時行っております。

団員募集

音楽に情熱があり、オーケストラの経験がある方で、岐響の活動を理解し一緒にオーケストラ活動をする人を募集しています。岐阜県交響楽団は2023年に創立70周年の大きなイベントを予定しており、そのときに大きく活躍していただける方を歓迎します。特に20代、30代の若いプレイヤーは大歓迎です！一緒に音楽を楽しみましょう。

- 募集楽器 ヴァイオリン、ビオラ、チェロ、ファゴット、ホルン、トロンボーン、パーカッション
(各若干名)
- 募集内容 社会人で、オーケストラ経験が原則5年以上あり、毎回の練習に参加できる方を対象としています。当楽団は公益社団法人として音楽に関する事業を行い、演奏活動を通して岐阜県の芸術文化の普及と向上発展に寄与することを目的としていますので、自主公演以外の依頼演奏会や県の事業への参加も組まれていますが、全員の参加を基本としています。
- 練習日時 ○毎週土曜日 午後6時30分～午後9時30分 ○年に数回の日曜特別練習あり。

会員募集

岐阜県交響楽団は、1953年（昭和28年）、岐阜交響楽団として発足、その後活動が認められ2011年3月公益社団法人岐阜県交響楽団となりました。「岐響（ぎきょう）」という愛称で親しまれ、年3回の自主公演を中心に年間5～6回の演奏会を行い、各地の学校や地域での演奏活動、また、岐響ジュニアオーケストラの育成など、地域に根ざした音楽文化普及と向上発展に熱意と情熱を持って貢献しています。地元の皆様と共に前進を続け、名実ともに日本一のアマチュアオーケストラとなり、県民の誇りとなれるオーケストラを目指しています。岐響の意義と活動をご理解いただき、是非ご支援下さいますよう心よりお願い申し上げます。

- 会費 ○法人会員／年額1口 50,000円 ○個人会員／年額1口 20,000円
- 特典 ◇定期演奏会、ファミリーコンサートへのご招待
◇依頼公演での一般対象演奏会にご招待やご優待など（要申込）
◇プログラム等にご芳名が記載されます。

その他、詳しい内容につきましては、岐阜県交響楽団HPをご覧ください。

岐阜県交響楽団

検索

お問い合わせ 岐阜県交響楽団事務局 TEL 058-244-0150 gikyo@ktroad.ne.jp